

2023 年度宮崎大学医学部皮膚科研修プログラム

A. 専門医研修の教育ポリシー：

研修を終了し所定の試験に合格したのち、皮膚科専門医として国民に信頼され、安全で標準的な医療を提供できる知識と技術の獲得を目標とする。臨床医としての一般的な基本能力を基盤に、皮膚科学の高度な専門的診療技術を修得し、関連領域に対して広い視野をもって診療能力を高める。皮膚科学の進歩に積極的に接し、患者と医師と共同して最善の医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、患者中心の医療の実践情報の開示など社会的要望に応える。

B. プログラムの概要：

本プログラムは宮崎大学医学部皮膚科を研修基幹施設として、県立宮崎病院皮膚科、古賀総合病院皮膚科、千代田病院皮膚科、順天堂大学医学部附属病院皮膚科、九州大学医学部皮膚科を研修連携施設として、県立延岡病院皮膚科、国民健康保険西米良診療所、高千穂町国民健康保険病院、椎葉村国民健康保険病院、美郷町国民健康保険西郷病院を研修準連携施設として加えた研修施設群を統括する研修プログラムである。なお、本プログラムは各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定している。（項目 J を参照のこと）

C. 研修体制：

研修基幹施設：宮崎大学医学部附属病院皮膚科
研修プログラム統括責任者（指導医）：天野正宏
専門領域：皮膚外科、皮膚悪性腫瘍
指導医：根本利恵子 専門領域：アレルギー
指導医：持田耕介 専門領域：皮膚悪性腫瘍
指導医：成田幸代 専門領域：皮膚一般
指導医：西元順子 専門領域：皮膚一般
指導医：金丸志保 専門領域：皮膚一般
指導医：久保環 専門領域：皮膚一般

施設特徴：外来患者数は 1 日平均 50 名以上、疾患も先天性皮膚疾患、炎症性皮膚疾患、皮膚悪性腫瘍など多岐にわたる。入院患者は重症薬疹、熱傷、皮膚癌などの重症患者も多く、豊富な症例経験を積むことができる。また、年間手術件数は 200 件を超え、内科系から外科系疾患まで幅広く知識・技術を習得することが可能である。南九州に多い成人 T 細胞白血病/リンパ腫（ATLL）など、

この地域でしか経験できない症例を診療することができる。

研修連携施設

研修連携施設：宮崎県立宮崎病院皮膚科

所在地：宮崎県宮崎市北高松町 5-30

プログラム連携施設担当者（指導医）：久保環（医長）

研修連携施設：社会医療法人泉和会 千代田病院皮膚科

所在地：宮崎県日向市日知屋古田町 88

プログラム連携施設担当者（指導医）：小田裕次郎（医長）

研修連携施設：社会医療法人同心会古賀総合病院皮膚科

所在地：宮崎県宮崎市池内町数太木 1749-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：津守伸一郎（部長）

指導医：緒方克己, 帖佐宣昭

研修連携施設：順天堂大学医学部附属病院皮膚科

所在地：東京都文京区本郷 2 丁目 1 番 1 号

プログラム連携施設責任者（指導医）：池田志孝

研修連携施設：九州大学医学部皮膚科学教室

所在地：福岡県福岡市東区馬出 3-1-1

プログラム連携施設責任者（指導医）：中原剛士

研修準連携施設

研修準連携施設：県立延岡病院

所在地：宮崎県延岡市新小路 2-1-10

研修準連携施設：国立健康保険西米良診療所

所在地：宮崎県児湯郡西米良村 66-1

研修準連携施設：高千穂町国民健康保険病院

所在地：宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井 435-1

研修準連携施設：椎葉村国民健康保険病院

所在地：宮崎県椎葉村大字下福良 1747-5

研修準連携施設：美郷町国民健康保険西郷病院

所在地：宮崎県東臼杵郡美郷町西 29

連携施設特徴(主な施設のみ記載)：

宮崎県立宮崎病院皮膚科

施設特徴：湿疹皮膚炎群をはじめ感染症、水疱症、皮膚腫瘍、膠原病など各種皮膚疾患に関する診療を行っています。

熱傷、重症薬疹、蕁麻疹などの緊急性のある皮膚疾患も経験することができます。

尋常性乾癬、関節症性乾癬などの炎症性角化症に対する生物学的製剤導入も行っていきます。

またプライベートパーツ（外陰部、臀部）の皮膚疾患の相談や、フットケア指導も行っていきます。

手術は局所麻酔はもちろん全身麻酔の必要な手術まで行っております。

重症度に応じて入院加療を行います。

県内の開業医を中心とした勉強会に参加し、大学病院、各基幹病院とも連携して診療を行っております。

千代田病院皮膚科

施設特徴：宮崎県北地域の中核病院です。二次救急医療病院群輪番制病院であり、災害拠点病院指定でもあります。

内科、外科等診療科の患者さんを連携して診療することがあります。

古賀総合病院皮膚科

2012年4月から皮膚科専門医3人体制で診療を行っています。皮膚疾患の的確な診断と原因検索と重症度に応じた治療を行うよう心がけています。

宮崎市北部を中心とした地域医療の中核施設として、病診連携を緊密に行っています。薬疹や皮膚外科、褥瘡管理など関連施設からの紹介患者を中心に入院加療を行っています。

その他

研修基幹施設には、専攻医の研修を統括的に管理するための組織として以下の研修管理委員会を置く。研修管理委員会委員は研修プログラム統括責任者、プログラム連携施設担当者、指導医、他職種評価に加わる看護師等で構成される。

研修管理委員会は、専攻医研修の管理統括だけでなく専攻医からの研修プログラムに関する研修評価を受け、施設や研修プログラム改善のフィードバックなどを行う。専攻医は十分なフィードバックが得られない場合には、日本専門医機構皮膚科領域研修委員会へ意見を提出できる。

研修管理委員会委員

- 委員長：天野正宏（宮崎大学医学部附属病院皮膚科長）
 委員：持田耕介（宮崎大学医学部附属病院皮膚科講師）
 ：根本利恵子（宮崎大学医学部附属病院皮膚科助教）
 ：成田幸代（宮崎大学医学部附属病院皮膚科助教）
 ：金丸志保（宮崎大学医学部附属病院皮膚科医員）
 ：久保環（県立宮崎病院 医長）
 ：後田優香（県立延岡病院 副医長）
 ：黒木脩矢（県立宮崎病院 副医長）
 ：野上京子（宮崎大学医学部附属病院皮膚科助教）
 ：中山文子（宮崎大学医学部附属病院臨床教授）
 ：小田裕次郎（千代田病院皮膚科医長）
 ：津守伸一郎（古賀総合病院皮膚科部長）
 ：池田志孝（順天堂大学医学部皮膚科教授）
 ：清水志希子（宮崎大学医学部附属病院皮膚科病棟師長）
 ：中原剛士（九州大学皮膚科教授）

前年度診療実績：

	1日平均外来患者数	1日平均入院患者数	局所麻酔 年間手術数 (含生検術)	全身麻酔 年間手術 数	指導医数
宮崎大学	56.3人	13.2人	600件	200件	7人
県立宮崎病院	39.0人	8.6人	180件	10件	1人
千代田病院	32.0人	5.0人	280件	2件	1人
古賀総合病院	46.4人	6.4人	396件	16件	3人
順天堂大学	220人	5.9人	691件	30件	8人
九州大学	67.8人	18.6人	1350件	255件	8人
合計	461.5人	57.7人	3497件	513件	28人

D. 募集定員：4人(通常募集枠)

E. 研修応募者の選考方法：

書類審査，および面接により決定（宮崎大学医学部皮膚科のホームページ等で公表する）。また，選考結果は，本人宛に別途通知する。

応募方法については，応募申請書を宮崎大学医学部皮膚科のホームページよりダウンロードし，履歴書と併せて提出すること。

F. 研修開始の届け出：

選考に合格した専攻医は，研修開始年の3月31日までにプログラム登録申請書（仮称）に必要事項を記載のうえ，プログラム統括責任者の署名捺印をもらうこと。その後，同年4月30日までに皮膚科領域専門医委員会（hifusenmon@dermatol.or.jp）に通知すること。

G. 研修プログラム 問い合わせ先

宮崎大学医学部附属病院皮膚科

根本利恵子

TEL：0985-85-2967

FAX：0985-85-6597

H. 到達研修目標：

本研修プログラムには，いくつかの項目において，到達目標が設定されている。別冊の研修カリキュラムと研修の記録を参照すること。特に研修カリキュラムのp.26～27には経験目標が掲示しているので熟読すること。

I. 研修施設群における研修分担：

それぞれの研修施設の特徴を生かした皮膚科研修を行い，研修カリキュラムに掲げられた目標に従って研修を行う。

1. 宮崎大学医学部皮膚科では，医学一般の基本的知識技術を習得させた後，難治性疾患，稀な疾患などより専門性の高い疾患の診断・治療の研修を行う。手術に関しては，形成外科専門医と連携をとりながら，皮膚外科に必要な基本手技を習得する。さらに医師としての診療能力に加え，倫理観の確立などの医師としての総合力を培う。また，少なくとも1年間の研修を行う。
2. 県立宮崎病院，古賀総合病院皮膚科，千代田病院皮膚科，順天堂大学，九州大学では，急性期疾患，日常診療でよく遭遇する疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い，地域医療の実践，病診連携を経験することがで

きる。

3. 準連携施設である県立延岡病院, 西米良診療所, 高千穂町国民健康保険病院、椎葉村国民健康保険病院, 美郷町国民健康保険西郷病院では指導医不在のため 1 人医長としての研修として最長 2 年間の研修を行う可能性がある。1 人医長として研修する専攻医は宮崎大学医学部皮膚科の指導医と密に連絡を取り, 診療の相談, カンファレンスへの参加を随時行う。

J. 研修内容について

1. 研修コース

本研修プログラムでは, 以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成する。ただし, 研修施設側の事情により希望するコースでの研修が出来ないこともあり得る。また, 記載されている異動時期についても研修施設側の事情により変更となる可能性がある。

コース	研修 1 年目	研修 2 年目	研修 3 年目	研修 4 年目	研修 5 年目
a	基幹	基幹	基幹	連携	基幹
b	基幹	基幹	連携	基幹	基幹
c	基幹	基幹	連携	連携	基幹
d	基幹	連携	連携	基幹	基幹
e	基幹	連携	連携	基幹	連携
f	基幹	基幹	基幹	基幹	基幹および 連携
g	基幹	基幹	連携	大学院	大学院

a, b, c, d :

研修基幹施設を中心に研修する基本的なコース。最終年次に大学で後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補充する。連携施設は原則として 1 年ごとで異動するが, 諸事情により 2 年間同一施設もあり得る。

e : 研修基幹病院から研修を開始し, 連携施設を中心により実践的な診療経験を積むコース。研修 4 年目で, 基幹病院での特殊疾患を習得できるコース。

f : 研修基幹施設を中心に研修する基本的なコース。基幹病院の外来患者, 入院患者をじっくり多くの指導医のもとで経験できるコース。外勤先で一般的な疾患を経験しながら, 診断スキル, 処置, 検査を習得可能。大学院進学については, 夜間大学院などで対応。カリキュラムを修了できない場合は 6 年

目も大学で研修することを前提とする。

g: 研修後半に、博士号取得のための研究を開始するプログラム。博士号取得の基本的コース。

※モデルケースに準じた大学院のコースが必要

2. 研修方法

1) 宮崎大学医学部皮膚科

外来：水曜日、金曜日。診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。

病棟：専攻医は指導医の下、担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。月曜日は回診、病棟及び外来患者のカンファレンス、病理カンファレンス、抄読会等行う。水曜日、木曜日は終日、手術室にて全身麻酔の手術、レーザー治療などを指導医の下で習得する。また、担当患者が手術症例でなかった場合は、指導医の下、病棟患者の検査、処置等を行う。

皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	病棟 回診	手術 及び病棟	外来	手術 及び病棟	外来		
午後	カンファレンス 病理 抄読会等	手術 及び病棟	外来	手術 及び病棟	病棟		

2) 連携施設

社会医療法人泉和会 千代田病院皮膚科

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。院内でカンファレンスを週1回行う。皮膚科学会主催の

必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	休診	
午後	手術 カンファレンス	外来	病棟	外来	病棟		

順天堂大学医学部附属病院皮膚科

病棟グループと外来グループに分かれて研修するが，ある一定期間で交代する。

外来: 診察医に陪席し，外来診察，皮膚科的検査，治療を経験する。

病棟: 病棟医長・グループ長のもと診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察，検査，外用療法，手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い，評価を受ける。

毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い，評価を受ける。

抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また，皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表(病棟グループ)

	月	火	水	木	金	土
午前	病棟	病棟 手術	カンファレンス 手術 病棟	病棟	病棟	病棟
午後	病棟 回診 カンファレンス	病棟	病棟 病理カンファ レンス	病棟	病棟	(外来)

研修の週間予定表(外来グループ)

	月	火	水	木	金	土
午前	外来 手術	外来	外来	外来	外来 手術	外来
午後	外来 カンファレンス	外来	外来 病理カンファ レンス	外来 手術	外来	(外来)

九州大学医学部皮膚科

外来: 診察医に陪席し, 外来診察, 皮膚科的検査, 治療を経験する。

病棟: 病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察, 検査, 外用療法, 手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い, 評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い, 評価を受ける。

抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し, 年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。また, 皮膚科関連の学会, 学術講演会, セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 回診	外来 手術	外来	外来 手術	外来		
午後	病棟 カンファレン ス	病棟	病棟 カンファレン ス	病棟 カンファレン ス	病棟		

県立宮崎病院

古賀総合病院

3) 大学院(臨床)

基本的に日中は大学病院にて1)と同様にフルタイムで研修し、17時以降に臨床研究、論文作成等を行う。尚、大学院講義出席は基本土曜、日曜となっている。

4) 大学院(研究)

皮膚科以外の臨床教室、基礎教室にて皮膚科に関連する研究を行う。臨床力向上のため、研修期間中は週3回(月曜日のカンファレンス、水曜、金曜日の外来)は最低でも仕事に従事する。この期間、大学病院での研修および達成度評価・年次総合評価は不要とする。

5) 準連携施設

県立延岡病院、西米良診療所、高千穂町国民健康保険病院、椎葉村国民健康保険病院、美郷町国民健康保険西郷病院では現在指導医が不在であるが、地域医療を担う重要な病院である。皮膚科医として独立した診療が出来るよう経験と知識をより深化するため専門研修の後半に1年間に限り、1人での診療を行うことがある。また、大学病院および近隣の指導医のいる研修連携施設(宮崎大学医学部附属病院、県立宮崎病院、千代田病院、古賀総合病院)に患者紹介や診療相談を行うことにより、病診連携を習得する。

研修の年間予定表

月	行事予定
4	1年目：研修開始。皮膚科領域専門医委員会に専攻医登録申請を行う。 2年目以降：前年度の研修目標達成度評価報告を行う。 日本皮膚科学会宮崎地方会（開催時期は要確認）
5	
6	日本皮膚科学会総会（開催時期は要確認）
7	南九州地区合同皮膚科地方会（開催時期は要確認）
8	
9	
10	日本皮膚科学会西部支部学術大会（開催時期は要確認）
11	
12	研修終了後：皮膚科専門医認定試験実施 日本皮膚科学会宮崎地方会（開催時期は要確認） 研修プログラム管理委員会を開催し、専攻医の研修状況の確認を行う

	(開催時期は年度によって異なる)
1	
2	5年目：研修の記録の統括評価を行う。
3	当該年度の研修終了し、年度評価を行う。 皮膚科専門医受験申請受付

K. 各年度の目標：

- 1, 2年目：主に宮崎大学医学部皮膚科において、カリキュラムに定められた一般目標、個別目標（1. 基本的知識 2. 診療技術 3. 薬物療法・手術・処置技術・その他治療 4. 医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識 5. 生涯教育）を学習し、経験目標（1. 臨床症例経験 2. 手術症例経験 3. 検査経験）を中心に研修する。
 - 3, 4年目：経験目標を概ね修了し、皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。
 - 5年目：経験目標疾患をすべて経験し、学習目標として定められている難治性疾患、稀な疾患など、より専門性の高い疾患の研修を行う。4年目までに習得した知識、技術をさらに深化・確実なものとし、生涯学習する方策、習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形での研究活動に携わり、その成果を国内外の学会で発表し、論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり、研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。
- 毎 年 度：日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また、宮崎地方会には可能な限り出席する。各疾患の診療ガイドラインを入手し、診療能力の向上に努める。PubMedなどの検索や日本皮膚科学会が提供するEラーニングを受講し、自己学習に励む。

L. 研修実績の記録：

1. 「研修の記録」を、日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし、利用すること。
2. 「研修の記録」の評価票に以下の研修実績を記録する。
経験記録（皮膚科学各論，皮膚科的検査法，理学療法，手術療法），講習会受講記録（医療安全，感染対策，医療倫理，専門医共通講習，日本皮膚科学会主催専攻医必須講習会，専攻医選択講習会），学術業績記録（学会発表記録，論文発表記録）。

3. 専門医研修管理委員会はカンファレンスや抄読会の出席を記録する。
4. 専攻医，指導医，総括プログラム責任者は「研修の記録」の評価票を用いて下記（M）の評価後，評価票を毎年保存する。
5. 「皮膚科専門医研修マニュアル」を，日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし，確認すること。特に p. 15～16 では「皮膚科専攻医がすべきこと」が掲載されているので注意すること。

M. 研修の評価：

診療活動はもちろんのこと，知識の習熟度，技能の修得度，患者さんや同僚，他職種への態度，学術活動などの診療外活動，倫理社会的事項の理解度などにより，研修状況を総合的に評価され，「研修の記録」に記録される。

1. 専攻医は「研修の記録」の A. 形成的評価票に自己評価を記入し，毎年 3 月末までに指導医の評価を受ける。また，経験記録は適時，指導医の確認を受け確認印をもらう。
2. 専攻医は年次総合評価票に自己の研修に対する評価，指導医に対する評価，研修施設に対する評価，研修プログラムに対する評価を記載し，指導医に提出する。指導医に提出しづらい内容を含む場合，研修プログラム責任者に直接口頭，あるいは文書で伝えることとする。
3. 指導医は専攻医の評価・フィードバックを行い年次総合評価票に記載する。また，看護師などに他職種評価を依頼する。以上を研修プログラム責任者に毎年提出する。
4. 研修プログラム責任者は，研修プログラム管理委員会を開催し，提出された評価票を元に次年度の研修内容，プログラム，研修環境の改善を検討する。
5. 専攻医は研修修了時までに全ての記載が終わった「研修の記録」，経験症例レポート 15 例，手術症例レポート 10 例以上をプログラム統括責任者に提出し，総括評価を受ける。
6. 研修プログラム責任者は，研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し，総括評価を記載した研修修了証明書を発行し，皮膚科領域専門医委員会に提出する。

N. 研修の休止・中断，異動：

1. 研修期間中に休職等により研修を休止している期間は研修期間に含まれない。
2. 研修期間のうち，産休・育休に伴い研修を休止している期間は最大 6 ヶ月までは研修期間に認められる。なお，出産を証明するための添付資料

が別に必要となる。

3. 諸事情により本プログラムの中断あるいは他の研修基幹施設のプログラムへ異動する必要がある場合、すみやかにプログラム統括責任者に連絡し、中断あるいは異動までの研修評価を受けること。

○. 労務条件，労働安全：

労務条件は勤務する病院の労務条件に従うこととする。

給与，休暇等については各施設のホームページを参照，あるいは人事課に問い合わせること。

宮崎大学医学部皮膚科
専門研修プログラム統括責任者
天野 正宏